



Metals Focus – Precious Metals Weekly

貴金属ウィークリー 第 184 号 2026 年 7 月 19 日

ゴールド

米国6月のインフレの伸びは予想を下回り、ゴールドは4000 ドル超えまで回復

シルバー

ゴールドにほぼ追隨して金銀比価は 68-70 のレンジに

プラチナ

Northam の会計年度2026 年のPGM 生産は前年比 9.2% 増の32トン、自社鉱山の精錬生産は 4.4% 増の29.2トン

パラジウム

CME のファンドマネジャーのネットショートポジションは9月以降で最高の19.8 トン

ASGM: 小規模産金企業、戦略的ゴールドの供給源に成長

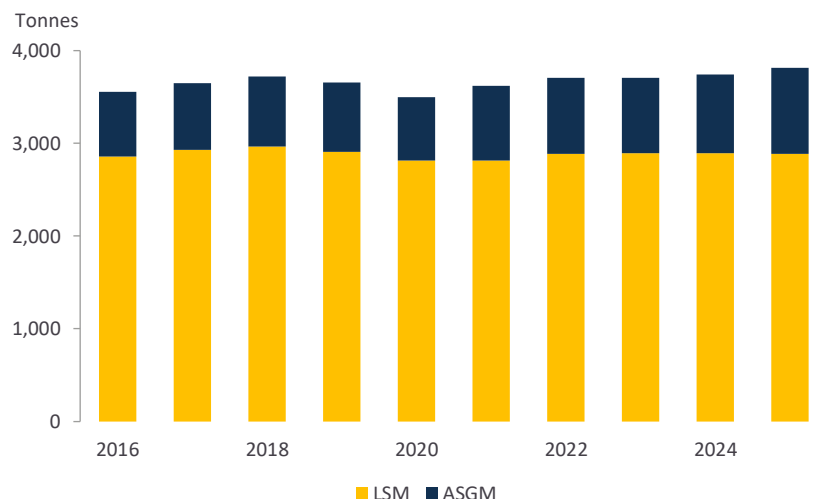
小規模産金企業（Artisanal and small-scale gold mining、ASGM は、経済条件の好転で産金セクター全体の成長を追い風に、この十年で着実に拡大した。ゴールド価格の上昇で採掘の収益性が向上しただけでなく、多くの発展途上国ではそれ以外の雇用機会が少ないこと、技術的な専門知識が普及したこと、採掘機器が入手しやすくなったこと、そして一部の精錬業者からの需要が増加したことなどがこの分野の成長を支えた。世界の鉱山供給における ASGM の生産シェアは、2016 年は 20%だったが、それが 2025 年には推定で 24%に増え、今や重要な供給源だ。2025 年の生産量は前年比 10%増の推定 932 トンだったが、これを支えたのは ASGM のゴールドを多く買い入れている中央銀行だ。国内市場の信頼できる買い手として価格競争力を高め、政府のゴールド準備高や国際市場で売却するためのゴールドを確保している。

ASGM の生産量が世界で最も多いのがガーナで、2025 年の生産量は推定 102 トン、2010 年以降で大規模産金企業生産量を初めて上回った。ガーナ国内の主要雇用創出源として経済的に重要であるにもかかわらず、ASGM の大半はいまだ非公式な体制のまま。しかし、この 1 年で公式なものにする取り組みが加速し、その代表的な例にガーナ・ゴールド・ボード（GoldBod）がある。GoldBod は、国内で生産されたゴールドを合法的に集荷・鑑定・輸出する唯一の機関で、ASGM 市場の監視の強化とトレーサビリティの向上を通じて、密輸と環境破壊の両方を取り締まる。中央銀行が ASGM ゴールドを買い上げることでこの取り組みはさらに強化され、政府の外貨準備高の増加と通貨の安定にも寄与している。

中南米の ASGM セクターで圧倒的なシェアを占めるのがペルー。ゴールド価格の上昇と低所得地域での雇用機会提供を背景に生産量は過去 10 年で 160%以上も増えた。アマゾン地域のマドレ・デ・ディオスのような辺境地域にも ASGM が進出しており、機械化の普及で生産量が増えた。しかし、生産規模拡大にもかかわらず、ペルーでも ASGM の大半は依然として規制の枠外にある。「Registry of Informal Mining (Reinfo)」を通じて公式な生産体制に変える取り組みはそれほど成功しておらず、Reinfo によって採掘者が公式化プロセスを完了しないまま長期にわたって操業を継続することが可能になってしまっているのが実態で、違法採掘が公式な鉱業セクターにとっては依然頭の痛い問題だ。一方、ペルーでは ASGM セクターの急速な拡大で、その関連産業も成長している。ペルー経済研究所 (IPE) によると、ゴールド取引・加工企業の登録数は 2015 年以降 250%増加。最近では公式化の支援、採掘者が受け取る価格の適正化、環境被害を抑えるために水銀の使用を減らすなどを目的として、中央集約型の加工工場の建設に力が注がれている。

ボリビアは世界トップ5に入る ASGM 生産国で、2025 年の生産量は推定 55 トン。ゴールド価格の上昇によって砂金採掘や低品位鉱床の経済性が向上し、生産量の増加につながった。ボリビアの産金業は協同組合が支配的で、国内の主要な雇用先でもある。しかし、法的には認可されているものの、協同組合と政府の関係が強いために生産体制までは公式化しなくてもすむ状況になっているため、多くはそのまま非公式なままだ。ボリビアの中央銀行も 2025 年にはゴールド準備用として 17 トン以上のゴールドを ASGM から購入するなど同セクターに深く関与している。

大規模産金と小規模産金のゴールド生産



アジア最大の ASGM 生産国はインドネシアで、2025 年の生産量は推定 50 トン。1990 年代後半以降にアジア通貨危機で失職した労働者を取り込み、ゴールド価格の上昇や新たな採掘地域の開拓などを背景にインドネシアの ASGM は大きく成長した。競争力のある市場価格と容易にアクセスできる輸出ルートが豊富であることも収益性を支え、増産が続いた。インドネシア政府が最近行った違法採掘（特に外国人投資家が関与するもの）の取り締まりによって、違法なルートによる生産規模の大きさが浮き彫りになった。政府は ASGM セクターの公式化と水銀使用の禁止に向けた対策を導入しているが、採掘者の大半は依然として操業に必要な許可を取得していないまだ。

ASGM は世界のゴールド供給においてますます重要な供給源となっているが、その多くは公式な規制の外で操業を続けている。そのために環境破壊の進行、融資や投資へのアクセス、不適切な価格での取引、危険な労働環境などの問題に対する対策が進まない。各国政府や業界団体は、一括買いあげ、ライセンス制度、共同加工計画などさまざまな取り組みを推進しているが、その進捗も国によってばらつきがある。ASGM の経済的な重要度に見合う監視体制を構築し、採掘者・政府・地域社会への貢献が実現できるか、それを左右する重要な鍵は、これらの対策がどの程度効果を発揮するかにかかっている。

地域別 ASGM 生産量

